

## 第1回 旧大名小学校跡地まちづくり構想検討委員会 議事録

【日時】	平成27年1月29日(木)	10:00~12:15
【場所】	西日本新聞会館16階	福岡国際ホール 志賀の間
【出席者】	井上 鴻一	大名自治協議会 会長
	三原 哲彦	大名公民館 館長
	大崎 信昭	大名小学校同窓会 副会長
	小谷 浩司	大名紺屋町商店会 会長
	飯田 浩之	We Love 天神協議会 事務局長
	松田 美幸	福岡地域戦略推進協議会 シニアフェロー
	出口 敦(委員長)	東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授
	坂井 猛(副委員長)	九州大学新キャンパス計画推進室 教授
	片野 博	九州大学 名誉教授
	池田美奈子	九州大学大学院芸術工学研究院 准教授
	青木 崇	株式会社日本政策投資銀行九州支店 企画調査課長
	大和 正芳	福岡市中央区 区長
	橋本 淳	福岡市教育委員会 教育次長
	馬場 隆	福岡市住宅都市局 局長
【欠席者】	日野 守隆	天神西通り発展期成会 会長

### 【開会・挨拶】

(住宅都市局長)

福岡市住宅都市局長の馬場です。委員の皆さまにおかれましては、大変お忙しい中、旧大名小学校跡地まちづくり構想検討委員会にご出席いただき、厚くお礼申し上げます。本委員会の開会に先立ち、一言ご挨拶を申し上げます。

旧大名小学校については、昨年春、140年という長い歴史をもって閉校を迎え、子ども達は、舞鶴小・中学校において、新たなスタートを切りました。その歴史は今年市政125年を迎えた福岡市とともにあるといっても過言ではないと思います。

一昨年、人口150万人を突破した福岡市では、第3次産業の従事者が9割を超え、多くの方々に来ていただき、集い賑わうことが活力・創造の源となっており、なかでも、活力の源である都心部においては、今後、広域交通の拠点となる天神地区や博多駅周辺での機能更新をはじめ、大濠公園・舞鶴公園地区の魅力を活かしたセントラルパーク構想の推進などにより、歴史・文化、賑わい、そして次世代を担う都市機能を併せ持った、福岡の未来へ向けたまちづくりが重要になってくると考えています。

天神地区では、昨年、国家戦略特区により、航空法の高さ制限の緩和が認められるなど、次のステージにまちづくりが進もうとしています。また、今回のテーマである旧大名小学校跡地の位置する大名地区においても、若い人達や女性の活躍、アートや文化活動が活発になっているなど、まちづくりのタイミングを的確に捉え、天神・大名地区の個性を活かしたまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。

このため、都心部の貴重な空間である旧大名小学校跡地の活用にむけ、これまで学校施設が担ってきた役割や都心部の機能強化と魅力づくりの観点を踏まえながら、これまでの歴史を礎にこれからの福岡を創るというメッセージを込めた場となるよう、委員皆さまのお力添えをいただきながら、今後の跡地のまちづくりの道しるべとなる「まちづくり構想」をつくっていきたいと考えていますので、どうぞよろしくをお願いします。

以上、簡単ではありますが、挨拶とさせていただきます。

#### 【委員紹介】

(省略)

#### 【設置要綱等】

(省略) 資料説明 (資料 1、2、3)

#### 【委員長及び副委員長の選任】

(省略) 委員の互選により、委員長に出口委員、副委員長に坂井委員が選任された。

#### 【資料説明】

(事務局) 資料説明 (資料 4)

それでは、資料に基づいて説明いたします。お手元の「資料 4」旧大名小学校跡地まちづくり構想検討委員会「第 1 回資料」をお願いします。

1 ページをお願いします。はじめに、(1) 旧大名小学校跡地についてです。位置は右下の図のとおりでございまして、面積は約 1.2 ヘクタールとなっています。右上に旧大名小学校の歴史についてお示ししています。学制当初に設置された学校の一つで 140 年の歴史がございました。福岡市政の動きも合わせてご参照願います。次に、中ほどの旧大名小学校跡地の動きです。平成 26 年 4 月、統合校となる新舞鶴小・中学校の開校に伴い、旧大名小学校が閉校しています。新舞鶴小・中学校については、隣接する検察庁及び少年科学文化会館用地に第 2 運動場を整備する予定ですが、現在、施設が立地しているため、旧大名小学校の運動場を新設校の第 2 運動場として利用しています。今後の予定ですが、平成

29年3月頃には少年科学文化会館用地に第2運動場を暫定的に整備することが可能となるため、平成29年4月以降に旧大名小跡地に立地する青年センター等の閉館する施設を解体すると、平成30年度以降に旧大名小学校の跡地活用について着手が可能となります。このため、跡地活用に向け、まずは基本的なまちづくりの考え方の整理が必要となることから、今回、旧大名小学校跡地まちづくり構想の策定に着手するものです。

2ページをお願いします。本検討委員会の進め方です。資料左欄の検討項目について会を重ねるごとに段階的にご意見をいただくことで、まちづくり構想案がまとまっていくのではないかと考えています。それぞれの項目を簡単に説明しますと、まず、1. 旧大名小学校跡地活用において検討すべき事項では、記載の(1)～(5)について共有し、(6)の検討すべき項目についてとりまとめを行います。次に、2. まちづくりの方向性の検討では、先ほどの検討すべき事項をどのような視点で検討していくのか、基本的な視点を整理し、跡地を取り巻く天神・大名地区のまちづくりの方向性と、これを踏まえた跡地で取り組むべきまちづくりの方向性をまとめます。次に、これらをふまえ、3. 跡地活用に向けた土地利用の考え方の検討では、跡地で新たに創出する空間、ゾーニングや空間づくりなどの土地利用をまとめます。最後に、4. 跡地活用に向けた取り組みとして、今後検討が必要な取り組みについてまとめます。これらの内容について、右に示す4つの検討ステップを経て検討することで、構想案がまとまっていくのではないかと考えています。本日は、ステップ1の段階となりますが、まずは、跡地活用において検討すべき事項並びに構想検討にあたっての基本的な視点について、委員の皆様からご意見をいただき、次回には、2. について、たたき台を示すことと合わせ、3. の検討に必要なご意見をいただくという、各回の内容を重複させながら進めていきたいと考えています。また、第1回の委員会後には、事例調査も予定しています。事例を通じて、跡地活用のイメージや実現に向けた留意点などを共有していくことを考えています。なお、各ステップについては、必要に応じて数回となる場合もあるかと思いますが、議会や市民の皆様からのご意見もいただきながら、平成27年度早期の策定を目指してまいりたいと考えています。

3ページをお願いします。1. 旧大名小学校跡地活用において検討すべき事項です。まず、(1) 上位計画等における位置づけです。いずれも、大名小跡地に限定したものではありませんが、関係するものについて抜粋しています。第9次福岡市基本計画では、8つの目標について施策の柱が示され、このうち、都市の活力を牽引する都心部の機能強化、回遊性の向上、多様な人が集まり交流・対話する創造的な場づくりに取り組むことが示されています。また、現在策定を進めているグローバル創業都市・福岡ビジョンの素案においては、建築物の更新期を捉え、出会いと交流を促す魅力的な都市空間を備え、新たなビジネスや価値を生

み出す創造的な場の創出に取り組むクリエイティブ街区の形成など、企業や人材を引きつけるビジネス環境の実現に向けた取り組みが示されています。右側は、福岡市都市計画マスタープラン都心部編ですが、都心部の目指すべき都市構造を記載していますのでご参照ください。これらの要素について、旧大名小学校が都心部の貴重な空間であることも踏まえ、実現可能な要素について整理していく必要があると考えています。

4ページをお願いします。次に、(2)跡地を取り巻く周辺地区の状況です。中心に赤塗りで旧大名小跡地を、跡地を取り巻く環境として、周辺地区の特長を示しています。旧大名小東側に赤丸塗りで示すエリアが天神地区、西側に紫の枠で示すエリアが大濠公園・舞鶴公園地区で、セントラルパーク構想を策定し、歴史・芸術文化・観光の発信拠点となる公園づくりを目指しています。また、北側にオレンジの破線で示すエリアは、統合校が立地し、新たな都心居住のエリアとして注目される舞鶴地区、そして、南側の緑の破線で示すエリアは、ファッションや飲食をはじめ、小規模な店舗やオフィスが立地する大名地区となっています。また、主要な通りや公園として、天神地区と大濠公園・舞鶴公園地区を東西につなぐメインストリートの一つである明治通り、近年、ファストファッションなどの商業施設が立地し賑わいのある天神西通り、地上・地下に魅力的な歩行者空間が形成されるきらめき通り、平成25年11月にリニューアルした警固公園などがあります。このうち、天神1・2丁目の明治通り沿道では、ビルの更新期を捉え、アジアで最も創造的なビジネス街を目指し、計画的なまちづくりの検討も進んでいるところです。

5ページをお願いします。(3)旧大名小学校跡地周辺の状況です。跡地周辺の道路沿道の状況や近接するエリアでの取り組みなどについてご説明します。跡地北側が面する明治通りは、計画幅員約25メートルの幹線道路で、天神地区の内外をつなぐメインストリートの一つとなっています。比較的規模の大きなビルが集積し、風格のあるまち並みを形成しています。しかし、現在は消防出張所はじめ公共施設が多く低層部の賑わいが乏しい状況となっています。次に、跡地南側が面するえのき通りは、幅員約8メートルの道路で、沿道には小規模で低層階を店舗とした建物が多く立地し、ヒューマンスケールで界限性のあるまち並みを形成しています。特に休日は人通りの多い賑わいある通りとなっています。この特性の異なる2つの道路に面する旧大名小跡地については、それぞれの沿道の特性を踏まえた土地利用が求められるとともに、異なる特性をつなぐ土地利用のあり方についても考慮する必要があると考えています。また、天神西通りについては、幅員約15メートルの道路で、天神地区と大名地区の境に位置する道路となっています。商業施設などの賑わいが連続し、日常的に賑わう通りとなっています。次に、近接するエリアでの取り組みや活動について説明します。左下、緑の

枠内には、大名地区の特長的な活動をお示ししています。クリエイターが入居し、アートや演劇活動が行われているリノベーションビル「紺屋2023」、古民家を活用した多目的スペース「エンジョイスペース大名」、国体道路沿道には石井ビルなど、出会いと交流を生み出す創造的な場が見られます。また、右下ピンクの枠内には、天神地区における公開空地などを活かした、賑わい創出の取り組みを示しています。きらめき通りでは、昨年11月に道路や公開空地を活用したFukuoka Street Partyが開催され、警固公園では、例年、クリスマスイルミネーションが開催されるなど、施設内にとどまらず、屋外環境を活用した出会いと交流を生み出す賑わいの創出に大きく貢献しているところです。先ほどご説明しました周辺地区の状況やこれらの取り組みも踏まえながら、検討すべき事項や視点について整理していく必要があると考えています。

6ページをお願いします。左欄(4)学校再編に際して地域と定めた整備事項です。小中学校の統合再編にあたり、平成22年に大名校区と福岡市において定めた計画書の中で、旧大名小学校跡地の整備について定め、跡地利用計画の中で順次実施することとしており、3つの項目が示されています。1つ目は、現在の運動場と同等面積の広場を整備し、校区行事の場所や災害時の避難場所として利用すること。2つ目は、歴史ある大名小学校の面影を残すため、校舎の一部を保存し、災害時の避難場所や校区住民の交流の場としても利用できる多目的な空間を整備すること。3つ目は、明治通り沿道に立地する中央消防署大名出張所の配置換えに合わせ、大名公民館を移転改築すること、以上となっています。次に、右欄(5)旧大名小学校校舎の状況です。写真及び配置図の緑で示す南校舎は、昭和4年建築の鉄筋コンクリート造3階建ての建築物であり、市内に現存する小学校建築では最も古いものとなっています。平成22年と23年に実施した校舎に関する文化財的評価のための調査について、報告書の抜粋をお示ししています。校舎の文化財的価値ですが、福岡市では九大の諸建築に次ぐ4番目の古さを誇るなど希少価値が高く、右の写真にもある階段や廊下周り細部のアール・デコ様式など、昭和モダンの表情を見せる大名地区において、大名小のデザインが落ち着いたまちの性格を際立たせている、と評価されています。また、小学校活用の可能性として、活用方針が示されています。校舎は、文化財としての希少価値が高く保存が望まれるものであり、可能な限り現状維持が理想であるものの、校舎活用に際しての用途変更は不可欠であるため、オリジナルと改造部分を明確に区分するとともに、玄関を含む階段周りにつきましては、建築当初への復元が望ましい、とされています。また、保存の観点だけでなく、災害時の避難場所としての役割を考慮すると校舎の取り扱いにつきましては、慎重に検討する必要があるとされています。

7ページをお願いします。これまで説明いたしました要素を踏まえ、各委員の

皆様からのご意見もいただきながら、旧大名小学校跡地活用において検討すべき事項と今後のまちづくり構想検討にあたっての基本的な視点について、整理していきたいと考えています。資料には、事務局案を記載させていただいていますので、合わせてご意見いただければと思います。旧大名小学校跡地活用において検討すべき事項案として、4項目記載しています。項目①は、福岡市の成長の活力源となる都心部において求められる新たな機能の導入。項目②は、回遊性を強化する取り組み。項目③は、学校再編に際して地域と定めた整備事項。項目④は、昭和4年建築の南校舎について、保存だけでなく、活用の観点からの検討が必要ではないかと考えています。また、これらの検討すべき事項の検討にあたっての基本的な視点案として、3項目記載しています。視点①として、大名地区や天神地区の拠点性の強化など地区の特性を生かした更なる魅力づくりとして、創造的な場づくりへの取り組み。視点②として、跡地において新たに創出する土地利用と校舎等の有効活用が一体性をもつこと。これにより、双方向の回遊性が高まり、相互の土地利用が相乗効果を発揮できるなど、より魅力ある跡地活用になると考えられます。視点③として、民間活力の誘導と記載していますが、賑わい創出や都市活力などは公共だけでは実現することはできないため、画一的ではない様々なニーズにあった運営等が必要な際は、様々な方々と官民連携でまちづくりに取り組むことが重要になってくると考えています。なお、歴史ある建物の活用や学校跡地活用の事例を次頁に記載していますので、8ページをお願いします。

参考事例1「丸の内ブリックスクエア」と参考事例2「アーツ千代田 3331」いずれも東京都千代田区の実例です。事例1は、規模は今回と違いますが、歴史的建物を活かした都市開発です。東京駅から徒歩5分に位置し、1894年に建設した三菱一号館の復元と、低層階を商業施設としたオフィスビルを、回遊性と賑わいを創出する広場を中央に周囲を囲むように配置することで一体性を持った空間を創出しています。続きまして、事例2は、廃校となった中学校校舎を活用して新たな機能となるアートセンターを導入し、隣接する公園とウッドデッキでつなぐことで一体的な利用を可能とすることで、交流空間として新たな価値創造の場としての活用を実践している事例です。校舎にはコミュニティースペースやカフェなども併設され、誰でも気軽に利用できる施設となっています。なお、冒頭ご説明いたしました事例調査については、できれば、この2事例について、現地を訪問し、実際の場のイメージや取り組みなどを伺いながら、跡地活用のイメージや実現に向けた留意点などを共有していければと考えています。資料の説明は以上です。

#### 【質疑及び意見交換】

(委員長) 本日第1回目の委員会ですので、委員の皆様からそれぞれご意見をいただき

たいと考えております。

(委員) 私は大名地区に60年住んでいます、約20年前には家の前で車を洗車しても全然問題がない場所でした。ところが現在では洗車をしていると交通渋滞が起こって大変な問題になるような場所になってしまいました。そういう状態になったのはほんのこの15年位です。私たちが住んでいても驚く状態です。大名小学校が統合するという話になった時、地域住民から突き上げがありましたのは「大名小学校」という名前がなくなることでした。「何故大名小学校をなくすのか」と追及されましたが、「あなたたちは何を言っているか。児童数がたった60人ではないか。これだけ地域住民が減ったのだから仕方ないではないか」ということで納得していただいたという状況がありました。(このような経緯を踏まえ)この会合がただの地域住民のガス抜きにならないように、是非深く検討していただきたいと思っています。特に(P6記載の)「現在の運動場と同等面積の広場を整備し、校区行事の場所や災害時の避難場所として利用する。」という整備項目ですが、10年前に福岡県西方沖地震があった時には、あの運動場が満杯になるほどの避難者がいました。それからその日の夜は避難された方が帰宅困難者及び地域住民100名以上講堂で一晩過ごされました。だからこれは絶対に必要であるということをして是非委員の皆様は頭に入れていただきたい。もう一つ実行していただきたいことは、今は大名小学校の学校施設の位置付けがあるということで風営法に守られていますが、もし風営法の保護対象から外れると、大名のすぐそばに名前を出して悪いが親富孝通りの前例があり、ああいう風になりたくないと思っています。特に大名小学校の正面の通りは、もし風営法が外れると同じような状態になるのではないかと地域住民は皆危惧しています。是非その辺も検討していただき、頭の中に入れていただければ幸いです。

(委員) 先程お話しいただいた委員がおっしゃったように、地域のことに关しましては、その通りだと思しますので、公民館の立場からお話したいと思います。現在大名公民館は都心部にあり、福岡市民の多くの方が利用されています。やはり、交通の便が良く、商業施設が整っているから、皆さんは遠くからでも集まりやすいことで、大名公民館を利用されていると思います。現在、大名公民館はサークル48団体利用されていますが、大名の方は一割程度です。部屋数も3室しかなく、一般貸出しは、利用見込みに十分に答えることができない状態です。移転をした場合どのようにすればいいのか。新築すれば150坪館となり今より増室となりますが、皆さんが使用したい時に「空いてますよ、どうぞお使いください」と言えるようにするにはどうすればいいか。また、学校校舎を利用した公民館というのも一つは考えられるのではないのでしょうか。今は一般社会と学校が塀で遮断されて閉鎖的であり、開放的で、いつでも、皆さんが

気軽に利用できるような施設を考えていただきたいと思います。平成21年度に地域と定めた事項において定める多目的な空間は体育館の替わりとして約200㎡（約60坪）程度だったと思いますが、福岡県西方沖地震の時には100名以上の人が避難所として、体育館を利用されましたが、この新しい多目的な空間で対応できるのかも含めて、もう一度考えていただきたい。福岡県西方沖地震の時には、地域住民は警固公園を利用することができなかった。来街者の人々で公園の利用ができなかったため、地域住民は大名小学校のグラウンドと体育館を利用したことを含めて考慮していただきたい。

(委員長) 何点か重要なご指摘をいただきました。一つは深い議論をこの場でしていただきたいということ。また、2005年の福岡県西方沖地震の際にはこの小学校が避難場所としての機能を果たしたという実績を踏まえ、防災上の機能を跡地にも持たせてほしいということです。更に、これまでは児童が通っている施設ということで風営法上の規制が周辺地域にかかっていたが、今後どうなるのが非常に懸念されるということです。そして、これから整備されるコミュニティ施設としてのキャパシティについてですが、地域のニーズを把握した上で、これからの地域社会に相応しいコミュニティ施設としての内容や規模を備えた施設としてほしいというご意見です。

(委員長) 次の委員の方お願いいたします。

(委員) 私は昭和21年に大名小学校に入学し、昭和27年に卒業しました。当時は1,200～1,400という児童数でしたが今は50人を切るような状況になり、大名小学校がなくなるのは非常に残念だが仕方のないことだということで、『大名』というネーミングを残して欲しいと同窓会からも突き上げられました。「何故『大名』というネーミングが消えて『舞鶴小・中学校』になったのか」というお叱りを受けましたが、これについても大名・舞鶴それぞれ5人位ずつ委員として集まっていただいてネーミング決めをしました。役員の中で実際に小・中学校を大名・舞鶴を卒業したのは私一人で他に地元に通われた方がほとんどいませんでした。それくらい小学校というものに愛着が足りないこともあり、一時期『中央』というネーミングが出てきました。『中央小・中学校』にしよう」ということだったが、最終的には舞鶴小・中学校になり舞鶴という名前が残ったものですから、舞鶴同窓会はこのまま続けていかれるとのこと。しかし大名・簗子小学校については、同窓会は一度終わりになるのではないかという気がして、残念だが致し方ないと思っています。私が同窓会として一番望むことは、校舎をどうするのかという問題です。ただあのまま残すというのも大変なことです。玄関まわりを当時のまま残して、それに歴史資料館や公民館など一体になるようなものをつくり上げていったらどうか。大名小学校からは偉人の方がたくさん出ています。画家や政治家などいるので、そういう方



の物を残していくのも必要不可欠であると考えています。また、震災時の自治協の会長は私でした。2日間寝ずに百数名の方を見守って整理をしました。実際にやってみてこれは大変だと思いました。今言われたように警固公園は他所からお見えになられた方が使うので我々は警固公園には行かないでください、でないとは把握ができないと申し上げ、大名小学校に皆来ていただきました。隣が西鉄グランドホテルで、当時結婚式が2組入っていました。当日の朝、運動場を見ると黒い礼服を着た方がたくさんいました。3月で寒かったので体育館を小学校から開放していただきました。なので、せめてあれくらいの体育館、公民館の広さが必要だという気がします。これから、そういうことを踏まえて、必要不可欠なものをまずつくっていき、それに新しい良いものを増築していくという形で進めていけたらよいと考えています。

(委員長) 重要なご指摘を二点いただきました。一つは校舎の保存に絡んだ話です。校舎の文化財的価値については調査をした委員から後ほどお話いただきたいと思いますが、大変長い歴史を持っている小学校であり、各界で活躍されてきた卒業生も大勢いらっしゃることも含め、小学校の歴史をきちんと留めておく必要があるとのご意見です。例えば、資料館というアイデアでした。目に見える形で地域の歴史を継承していくことは非常に重要だと思います。重要な検討項目の一ついただいたと思います。それから、福岡県西方沖地震の時の避難場所となった実績を踏まえて、是非防災機能を引き続き兼ね備えていただきたいということです。私も記憶が蘇ってきましたが、2005年3月の三連休の真ん中のお昼前の地震でしたが、大名・今泉地区は特に大変な被害を受け、地域の方々がこの小学校に避難されました。またいつこういった災害が起こるかわからないので、地域の方が安心して暮らしていけるための防災機能を引き続き兼ね備えるようにしていただきたいということです。大変重要なご要望と思います。是非検討していただきたいと思います。

(委員長) 次の委員の方お願いいたします。

(委員) 福岡県西方沖地震では自分のビルが倒壊して大変な思いをしました。その時自分の家族は大名小学校に避難して炊き出しなどを手伝いました。それから私も大名小学校出身ですが、昔は大名小学校の屋上でドッジボールをしていました。ボールが落ちて車も通っていないので困らないようなところでした。しかし、先日の閉校式の時に屋上に上がってみたら、(劣化しており)これは維持管理が大変だと思いました。私も校舎には愛着がありますが、自分自身でもビルを管理しているので大変なことだと感じました。それから大名1丁目、2丁目には公園・広場がありません。昔は紺屋町商店会の人たちは皆そこに住んで商店などをやっていましたが、今は関東・関西からの出店になっています。昔は八百屋や魚屋でしたが、今はブティック・美容室・飲食店になっています。

週末は歩行者天国ではありませんが、多くの歩行者で賑わっています。また、私も酒屋をしていますので車の出し入れをしますが、駐車場の前に自転車がずらっと止めてあります。これはちょっと大変なことだと思います。昔は地域で買い物をして、卵を一個から売っているような店もありましたが、今は紺屋町商店会に住んでいる方は30人いない。後はテナントです。催しをしようと思って店長に言っても、関東・関西にお伺いを立てないといけない。一方で、以前、店を持っていた人が糸島など遠くに家を建てて出て行っても、結局は不便だということで、病院などが近くにあるところに帰ってきています。だから、紺屋町商店会としては新たな住人である若者と地域住民が協力して安全で安心して暮らせるまちをつくっていきたいと思っています。先ほどから皆さんがおっしゃられている通りです。

(委員長) 大名地域は十分な規模の広場が不足しており、昔は屋上も子どもの遊び場であったということです。そうした公園的な機能を小学校が果たしていたというご指摘をいただきました。地域との取り決めでは広場を是非確保してほしいとの点が含まれていましたが、子どもたちも活用できる広場となってほしいという思いにつながっていくお話と思います。それから、紺屋町もだいぶ様変わりしたというお話ですが、地元の店主よりもテナントとして入居されている事業者が増え、ご苦勞をされているとのこと。様々な方々を束ねながらまちづくりをある方向に持っていかなければいけないというお話は、紺屋町を含む大名の賑わいづくりや、商業事業者の立場から考える今後のまちづくりにも役立つ跡地の施設づくりをしていただきたいという点につながっていくのかと思います。

(委員長) 次の委員の方お願いいたします。

(委員) 皆様、私どもの日頃の取り組みに多大なご協力、お力添えをいただきありがとうございます。本日は大名小学校の跡地利用についてのお話ということですが、その前に私どもの普段の天神地区での活動のご紹介を簡単にさせていただきながら、それと絡めてお話しします。資料5の私どもの取り組み状況ですが、We Love 天神協議会は2006年に設立、その2年後2008年に天神地区のまちの目標像としてまちづくりガイドラインを策定し、その中で「まちの将来の目標像」として、歩いて楽しいまち、心地よく快適に過ごせるまち、持続的に発展するまちを目標像に掲げて現在の体制に至り、日々の取り組みを行っています。現在天神地区で活動する企業や団体、現時点で114の会員で構成されるまちづくりの団体となっていて日々取り組んでいます。ソフト面での天神での主たるエリアは天神1丁目、2丁目になりますが、元気で明るくて賑わっているまちを目指して日々の取り組みをしています。具体的な活動内容例として、いくつか分類されますが、例えばエリアとしてのベビーカーの貸し出し

サービス、まちの案内人という来街者に向けてのサービスだとか、歩行者施策としてマップの作成、自転車対策などを日々行っています。地域の安全・安心という観点では、天神クリーンデー、清掃活動や大名地区を対象にした落書き消し、大名地区も含めた合同防犯パトロールを行っています。まちの賑わいということではいつも多くの人で賑わっている明るく元気なまちという姿を目指して、いろいろな賑わいの施策やイベントは年を通して開催、実施しています。写真を掲載していますのは今年度の代表的なものですが、季節ごとにテーマを持って、集客や賑わいのイベントを開催しています。夏には、夏休みに子どもやファミリーを対象としたイベント、市役所前広場で水を使ったアトラクションの遊び場、夏休みということで子どもの仕事の体験をできる企画を行っています。秋には Music City Tenjin という10年以上開催している天神のまち中のイベントを行っています。新しい企画として大名エリアのカフェなども会場の一つとして何か所かそこでライブをやって、飲み物つきで大名の店をはしごしながら楽しめるといった企画も、今年度からカフェのオーナーと企画をまとめて開催しました。そして、今年度はきらめき通りでの歩行者天国（Fukuoka Street Party）が私どもの取り組みの目玉で、昨年11月に3日間の日程で開催した。福岡市の国家戦略特区の認定事業ということで、福岡市とともに取り組みましたが、きらめき通りを交通規制により車の進入を止めて歩行者天国として、音楽のライブや吹奏楽のパレード、大道芸のパフォーマンスといった賑わいのプログラムを用意しました。おかげさまで3日間天候にも恵まれて13万人ものたくさんの人に来場いただき大盛況で大成功のイベントになりました。こうした全国的にも例のない賑わいのイベントも新しく始まっています。冬は先日開催を終えたばかりですが、今年は警固公園でのクリスマスイルミネーションやクリスマスマーケットを開催し、また、市役所前広場で雪まつり、雪を積もらせて子どもに遊んでもらう企画も今年からスタートさせました。このように年中を通してまちの賑わいづくりを行っています。私たちの活動の紹介はここまでですが、こうして見ると私たちは天神のまちの賑わいの拠点を市役所前広場と警固公園としており、そこに歩行空間が充実し、歩行者が大変多いきらめき通りが続いて東西に広がっている考えを持っています。歩行者天国も今後も年に数回、将来的には毎月、毎週賑わいをつくりたいと思っていますが、東の市役所前広場、警固公園、そしてきらめき通りの先に大名小学校がちょうど位置しています。そうした東西の賑わいの連続性といったところで、大名と言わず広い意味での天神、この都心部一体のまちの賑わいにつながるような場所に、この大名小学校がなくなっていったらよいのではないかと思います。そこに大名ならではの歴史や若者の文化、食などのテーマや、学校の跡地であるということでの文化、教育といったテーマなどを受け止められるような施設が

でき、それが情報発信できるような場になればと思います。具体的にはこれからの検討と思いますが、資料の事例にありましたアーツ千代田3331のような、開放的で明るく、皆さんが立ち寄れるような場所に大変強い関心を持っており、詳しく勉強させていただきたいと思っています。

(委員長) 配布資料を使ってご説明いただきました。We Love 天神協議会は2006年4月から活動を続けておられますが、特に歩行者天国の取り組みに代表されるような、歩いて楽しい都心づくりに特に力を入れているということです。歩いて楽しい地域であるためには、人が歩きたくなるようなまちが連続した地域になっていないとならないわけで、天神と大名は連続した地域として来街者は捉えています。歩いて楽しいまちが連続した地域としての回遊性をさらに強化していくために天神と大名は連携していく必要があるという指摘につながるご発言をいただきました。先程の事務局の説明資料の検討項目の2番目にも「回遊性を強化する取り組み」とありました。回遊性というのは非常に広い意味ですが、委員のお話は、天神との間に西通りがありますが、天神と大名をつないだ回遊性を歩行者の観点からどのように強化していくかという課題につながっていくのだと思います。

(委員長) 次の委員の方お願いいたします。

(委員) 福岡都心再生戦略という資料を参照いただきながらお話しします。Fukuoka D.C. は地域という言葉があるように福岡都市圏全体の成長戦略を考える産官学民の組織であり、福岡市や福岡県という自治体の会員、九州大学、九州産業大学、福岡女子大学という大学の会員、そして企業、企業も福岡だけではなく全国規模の企業もたくさんあり、正会員67、特別会員や賛助会員を合わせると約100の会員、組織で成っています。FDC がめざすのは国際競争力を高めて福岡都市圏が持続的に成長していくことで、2011年に地域戦略をつくり、2012年に5つの部会に分かれて様々な取り組みを始めました。その中で、都心をいかに魅力的なエリアにしていくかということで作ったのが福岡都心再生戦略です。資料を開いて最初の左側のページの上に MICE という言葉が出てきます。いわゆる国際会議やコンベンションと言われるものをたくさん誘致してくることによっていろいろな人が福岡に来て、福岡にある素晴らしい方と出会って新しい文化や芸術、ビジネスを生んでいこうということを進めています。都心の戦略をなぜつくったのかということですが、福岡は、東はアイランドシティ、西は百道・学研都市という都心の外側の開発はとでも進んでいます。ところがその間にど真ん中の都心が、国際的に比べると魅力が落ちてしまいました。何もしなかったわけではないのですが、世界中のほかの都市が魅力を増して行っている中で、やはり都心を磨き上げないと福岡に対する様々な注目や人の移動、あるいはお金の移動がこないということで、もう一度きちんと都心の

魅力をつくりましょうということをつくったのがこの戦略です。右側のページの図について、大事なポイントはここでどうやって新たな価値を生み出すかという点です。必ずしもお金だけではなく様々な新しい考え方や新しいアイデアも含めて、これからそれを進めるときのポイントはやはり人です。クリエイティブな人たち、あるいはやる気のある人たちが集まってこない、経済は活性化しません。そこで、福岡の都心を3つのエリアに分けて考えました。(P2) まず博多駅周辺。やはり博多駅は空港も近いし全国、九州各地からここが玄関口となっていていろいろな人が集まってくるので、ビジネスの玄関口としての開発をしましょう。そしてウォーターフロント。福岡のウォーターフロントには国際会議場、展示場もあるしここに国際会議や展示会、スポーツイベントなどのMICEを持ってくることによって活性化しましょう。そして天神・渡辺通エリア。ここは非常にクリエイティブな人材が集まるエリアなので、そこに大名小学校跡地開発も入っていますが、ここにクリエイティブな人たちが集まることによって新しいイノベーションが生まれるエリアにしましょう。それぞれの3つのエリアに新しいものを生み出すためのアンカー(礎)、イノベーションが生まれるアンカーを置きましょうということをこの戦略の骨子にしました。では本当に大名の辺りにそんなにクリエイティブな人がいらっしゃるのかということで分析をしました。(投影資料)棒グラフでみるとサービス業の人たちが伸びています。不動産や小売はそれほど伸びていません。この都心に増えているのは、様々なサービス業の方々であることがわかります。色が濃くなっているところがクリエイティブな仕事をしている人が多いことを示していますが、天神・大名あたりにクリエイティブな人が多いことが分かります。次の資料を見ると、今、シェアスペース・コワーキングスペースと言って、いろいろな人が自分のオフィスを持つのではなく広いオフィスに自営業の人たちが集まって、共同で働くスペースが市内にも増えてきています。赤色が民間でできているスペースで、青色が公的機関のつくった施設です。つい最近、国体道路にスタートアップカフェというものができて、これも国家戦略特区の取り組みの一つで、ここに来ると若い、新しいビジネスをつくりたいという方々が集まって、昼夜問わず熱い議論をしています。そういう場ができると、いろいろと出会わなかった人たちが出会って「じゃ一緒にやろう」という話が日々起こり、そのような場が増えつつあります。やはりこういう人たちが集まる場をつくるのがこれからの経済の発展には大事だということが、Fukuoka D.C.の基本的な考え方です。そうした中で、イノベーションが起きる礎を置く場、イノベーションアンカーというものですが、例えばシェアスペースであったり、起業家がオフィスを持つような場であったり、あるいは大学のような学ぶ場で、革新的、創造的な交流が起きると言われています。その事例をご紹介します。やはり斬新なビ

ビジネスやアイデアを生み出す人たちが集まりやすいところには必ずアート、芸術、デザインが重要です。今世界中でクリエイティブな人たちが集まってとても元気な都市というのは、ヨーロッパではベルリン、アムステルダム、バルセロナといった都市で、アメリカではポートランド、サンフランシスコ、ボストンなど、そういうところを学びながら考えたのがこの都心再生戦略です。ここからは私的な経験からいくつか紹介します。イノベーションスタジオ福岡は、市民あるいはデザイナー、企業の方が集まって新しいビジネスをつくろうという活動をしています。元気のいい人たちが60人、70人と集まって週末にいろいろな活動をしています。広い場所があつていつも集まれる場所があるといいというのがこの方々の希望です。今のところそういう場所がなく、ワークショップをやる時は大橋の九大の部屋を借りたり、普段は先程紹介したスタートアップカフェに集まっていますので、もっとそういう場があつたらいいなという声を聞いています。次に、東京の渋谷のヒカリエ。とてもおしゃれなスペースがあり、ここには世界中のクリエイティブな方々が集まって新しいビジネスがどんどん生まれています。その次はオーストラリアのメルボルンの自営業の人が集まって働くスペース。日本のコワーキングは細かく区切ってあり、あまり隣の人としゃべらないようですが、海外のコワーキングはオープンで割と年代も高い。若い人たちだけではなく40代、50代の人たちも起業するので、これから自由な働き方をする方々が増えるというのもこういう場があるからなことだと思っています。さらに、サンフランシスコのシリコンバレーにあるスタンフォード大学のdスクールには、皆が思いついたことをすぐ作ってみるという部屋がたくさんあります。大学の教室とは思えないような刺激をするような空間に集まって、わいわいがやがや言いながら、たくさんの新しいビジネスが生まれています。最後に紹介したいのが、香港の都心にあるPMQ (Police Married Quarters) という警察の官舎だったところで、そこが今やデザイナーやクリエイターが集まる場になっています。実はもともとは孫文も通ったという学校、中央書院の跡地に警察官舎ができて、それが今度はデザイナーやクリエイターが集まる場になった。その周辺的环境も大名小学校の周辺とよく似ています。住宅があつたり、えのき通りのようなところに骨董店があつたりと、すごく似ています。その建物を活かしてしかも民間と官とが一緒になってやっています。重要なポイントが、クリエイティブ産業を振興するために使おう、文化的な遺産は残そう、そしてオープンなスペースを住民のために確保しようという原則に沿って改装された建物で、いまたくさんの店が入って賑わっています。若いクリエイターには賃料は安くして入りやすくして、その代わりに有名ブランドが入る時は相場の家賃で、人も連れてきてもらってうまく組み合わせられるようになっています。日本の無印良品なども入っていますが、非常に質

の高いデザインを趣向したものが入っています。廃墟を改装して住民も集まりデザイナーも集まるようなところになっています。人がどうやって交わるかという場をつくる、かつ昔のものを残す、ビルの名前も元々の警察官舎という名前をそのまま残しているのいろいろなヒントがあるのではないかと思います。紹介しました。この大名小跡地が、歴史を踏まえながらも新しいものやイノベーションを生み出すための場になると、さらに創造的な人材の集積が起こるのではないかと思います。

(委員長) 海外の事例も含めて分かり易くご紹介いただき、最近の時代の流れについてもご説明いただきました。大名という地域はおそらく小さいビジネスから大きいビジネスまで様々な夢を育て、叶えてきた場所ではないかという気がします。それが大名のまちの魅力ではないかと思います。地元で育ってきた方、この小学校で育った方、あるいは外から大名にやって来て仕事を始めた方々が、自分たちの夢を育て、叶えてきた地域だと思います。そうした多くの人々の歴史を重ねてきたまちであり、最近イノベーションという言葉が流行っていますが、新しい創造力を生かしたビジネスを育てていくような役割を是非、これからの大名にも担ってほしいというお話だったと思います。新しく施設をつくる、あるいは小学校の校舎を活かすにしても、空間の魅力に惹きつけられて人々が集まってくる、あるいはそこでいろいろな創造力が育っていくわけで、空間の魅力を創出するデザインの力の重要性もお示しいただきました。是非その点も検討項目に入れていただければと思います。

(委員長) 続きまして、副委員長お願いいたします。

(副委員長) まちづくりの観点からということで、先程回遊性というお話がありましたが、それに関連した話をさせていただきます。天神から大名というつながりは非常に大事で、都心部から人がわいてくるのでそれをどうやって受け止めるかという課題が一つあると思います。一方、西の先の福岡城跡、大濠公園はセントラルパークとして市民皆が行く場所として位置づけられようとしています。そこちょうど歩いていける距離にあって、東から西に人が動く、その逆もある、そういった大事な場所にこの敷地が位置すると感じています。特にえのき通りのつくり方、明治通りの方もこれまで以上に人が歩くことが想定されると思います。その時にこの敷地が小学校から次のもの変わってくる変わり方が問われています。隣にはグランドホテルがあり、反対側にはURやオンワードさんの敷地があります。そういったところとの関係も大事になろうかと思えます。一方、福岡市はウォーターフロント部をこれからしっかり位置づけて変えていこうということを検討されています。このウォーターフロント周辺部には舞鶴、親富孝通り、鮮魚市場があったり病院が変わっていたり、そういったところから南の方へ下りてきたとき、南の方の大変魅力のあるまちに通る場所と

してあるのではないか。天神西通りを通るのもありますが、跡地を通して抜けていくということがこれから期待できる場所でもあります。小学校建築は昔は南北に開口が向いているということで、東西方向に並んでいて壁のようになっていますが、それをどういう風に抜けていくのかが一つの大事な検討しなければいけないポイントだと思います。それからもう一つは、大名、天神という広い視点で考えると、天神ではまさに機能更新が起ころうとしています。大名小跡地を活用しながら東京の大丸有のような連鎖型でまちをつくっていくやり方もあります。土地の有効利用の点からいくと、ここは容積率が大変高めに設定されている場所で、市の財産としてマネジメントしていくと考えると、容積を積んでそこで収益も多少上げられる場所なので、その兼ね合いがどうなるのかというのも考えなければいけないポイントではないかと思います。

(委員長) 旧大名小学校の敷地の立地条件をどのように読み解いていくのかという点についてお話いただきました。一点目は、街区の中央に立地する敷地であり、明治通りという幹線道路と、紺屋町を含めた大名の居住者や商業事業者の方々の活動の場との間の接点に立地するということです。北側の幹線道路と南側の地域とのつながりを創り出す上で鍵を握っている場所だということ。北側の明治通り側と大名地区をつなげるゲートの役割をする場所とも言えます。また、隣接してホテル、オフィス、集合住宅などがありますが、周辺の敷地とどのようにして連携を取っていくのかも重要な課題とも言えます。当然何らかの形で互いに影響しあうものだと思います。周辺敷地との連携の必要性についても触れていただきました。更に、先程の委員のお話では、回遊性の意味を天神と大名との地区間の人の流れと捉えていましたが、今のお話では、回遊性は大名の地域内の回遊性を意味しており、この跡地はそうした地域内の回遊性の鍵を握っている場所ではないだろうかという話をいただきました。是非、こうした点も検討項目に含めていただきたいと思います。

(委員長) 次の委員の方お願いいたします。

(委員) 資料6ページに調査の概要がありますが、平成22年と23年に調査を実施しました。建物は昭和4年、鉄筋コンクリートということで、当時は鉄筋コンクリートの建物はあまりなかった。公共施設しかなく民間はまだほとんど木造でした。戦前の学校は戦後の教育システムと違い、小学校区という校区の中でできたところがだいぶありました。ということは、自前でお金を用意して、建物もある程度は自分たちが頑張ってつくるのだという意欲でできた建物だったと思います。これは福岡だけではなく日本全国同じようなシステムだったように思います。そういういきさつでできて、福岡市では古いということで九州大学がありますが、大学は特別なので似たものを探すと旧福岡中学校の福高、これは文化財という形で残っていますが、他はもうほとんどなくなってしまいま



した。文化財の価値を何で決めるかは非常に難しいが、これしかないということで行くと福岡市の中ではかなり貴重なものだと思います。それから調査にあたり建物の形状や寸法については前に調査をしていたので、主に文献を使ってどういういきさつでできたのか、当時はどうであったかを調べました。その当時の復元が図面の中にありますが、残念ながら今の建物は化粧気がなくなっているということで、外壁がずいぶん改装されてしまいました。特に3階はそうでした。資料にはアール・デコと書いてあるが1900年の始めの頃にアメリカを中心に流行った商業的な建物のデザインとして特徴のあるものが日本に入ってきていますし、その特徴を色濃く残しています。現在は階段の塔屋の上のところの丸い窓しか残っていませんが、実は3階の窓のサッシが全部替えられていて、当時はもっと違った華やかなものでした。現在の状況は老朽化によりずいぶん姿が変わってしまいましたが、現在の姿で評価されるのは非常に困りますし、建物自身をどこまで復元するのかいろいろ問題があるかもしれませんが、当時の姿を考えてどうするかということではないと困ると思っています。調査の結果明らかになったことはこのようなことです。昭和の小学校は全国的にかなりなくなっており、東京でも明石小学校を建築学会が保存しようと運動したが結局だめになってしまいました。東京は結構残っています。学校があまり大きくなく、大名小の敷地の半分ほどしかないので地区の公園などとして残しやすいのかもしれないが、残念ながらなくなることも多い。明治大正は文化財になりやすいが昭和は知らないうちに壊されてしまう。もっと怖いのは戦後のもので、70年もたつと文化財になるのですが知らないうちになくなってしまうのが怖い。大名小はその前なので歴史的な価値があるということで、高い評価が得られるのではないかと考えています。内部に関しては、玄関回りはそのまま残っています。階段室も残っています。教室もそのまま、黒板なども当時のままであまり変わっていないようなものも残っています。現在は学校を建てても文科省の予算の関係もあり、そこまでお金をかけられない。地元が「おらが小学校」という形で建てた学校ということで、今壊して後にできるかといったらできませんよという価値があると思います。それから跡地の活用ということで一番大きな問題になると思いますが、文化財的な立場から言うと、こういう風に使えるから残せという言い方でなく、文化的な価値が高いから残す、ではどうやって使おうかという話になります。例えば、こういう風に使えるから残すとなると現状維持で何が問題になるかということ、建物の設備です。構造的な補強はしますが、ユニバーサルデザインという言葉がありますが弱者でも使えるようになるとエレベーターがいらいます。エレベーターをつくると設置面積によって古い建物が現行の法規に引っかかってしまいます。いろいろな問題が出てきます。そこまで含めて考えていけないということな

ので、ただ残そうということだけではなく、私の立場としては先程一部という言葉が出ましたが一部を全部と読み替えて残すべきだと考えていただきたい。どういう風に残すかという例が今日の資料の最後に出されています。東京の事例ということで、不思議なことに東京の方がこういうことについては積極的です。これも公共ではなく民間が古い建物を活用して、昔の東京のイメージを残しながら近代的なオフィスビルをつくっていくというやり方を、東京がやっているということでもかなり意味が大きいと思います。三菱一号館があるがもう一つ、東京駅の脇に東京通信省の建物があります。コの字型の建物をいじらず真ん中に高層建築を建てています。表面だけの保存ではなくて中庭を活用した形になっています。東京大学の博物館が入っていますので行かれると非常に面白い。それからご存じのように東京駅の改修ですが、改修前は2階建てでした。それを復元して3階建てにした。非常にお金がかかっているが、これは空中権を売るという手法を使っています。東京駅の上は建たないから丸の内の他の地区に権利を売って、そのお金でやるという方法です。福岡市の大名地区でその方法がどこまで使えるかわからないですが、大名小学校を残して3階建てであれば空中権は当然余ります。そういう活用の仕方もあると思います。文化財の保存・保護というやり方はいっぱいあると思いますので是非その辺のことを検討していただければと思います。その場合もあくまで建物の一部ではなく全部残していただきたいというのが私の一番の気持ちです。それから少し大名小学校から外れますが、今話題になっているのは災害の問題で、どうやってオープンスペースを確保するかというものがありますが、この地区の地図を見ると狭隘な街路であり、若干公共性の高いものが入っています。いずれも建物を見るとあまり新しくないので再編されるような形があるのではないかと思います。その時にすごく大事な種地になるような気がします。例えば、冗談ですが、グランドホテルが建替えをしたいというときには一番いいところかもしれない。そこまで含めてやるかはわかりませんが、我々が期待するのは現実をかなり離れたところで話すことが多く、全部オープンスペースにしたいとか、全部公園だという話になってしまうが、実際に土地の価格だとかいろいろ考えてみると必ずしもそうではなくて、やはりもう少し現実的な案でなくては実行できないと思います。今回の場合は銀行関係の委員も入られているので是非そういう意味で絵に描いた餅にならないようお願いしたいと思っています。

(委員長) 実際に校舎施設の調査に携わられたお立場から、あるいは文化財の保存に長らく携わられてこられたお立場からご意見をいただきました。まず文化財的な価値を守ること、その上でどのように施設を活用するか、という考え方に沿っていただきたいということでした。東京の事例についても簡単に触れていただきましたが、保存して活用する方法についても様々な先進事例がありますので、

そういった事例を是非事務局でも勉強されて、この地に最も相応しい保存、活用の方策を導入してほしいというご意見をいただきました。この点も今後の検討作業の中に組み込んでいただきたいと思います。

(委員長) 次の委員の方お願いいたします。

(委員) 私が九州大学で仕事をするようになって12年目、その内半分の6年間、大名の紺屋2023という建物に住んでいました。外から来た人間として大名で暮らし様々な芸術文化の活動を間近に見て、さらに自分も一緒にやらせてもらいました。紺屋2023は共同住宅として昭和40年代に造られた建物で、集合住宅として機能していたが老朽化が進み若干スラム化している、これを何とかしたいということで新たなプロジェクトが立ち上がって、その時に様々な文化的な職業を持った人たちが集まったら面白いだろうという企画が立ち上がっていった。例えばダンスをする人、アートのプロデュースをする人、建築家、グラフィックデザイナー等々。私はずっと雑誌の編集をしていたので編集という立場と大学の教育という立場でお誘いいただき、紺屋2023に住むことになりました。最初はぼろぼろのビルを見に行き、ここに住むというのは考えにくいと思いましたが、次第にこれは面白いかもしれないという気になりました。というのは今から約25年前、私は学生としてベルリンに住んでいました。25年前、ちょうど東西ドイツが統合してベルリンの壁が崩れた瞬間にドイツにいました。そのベルリンの壁が崩壊する前と直後のベルリンを、目撃者として間近に見ていました。その時に何が起こっていたかという、東ベルリンにあるぼろぼろの壊れたような建物がたくさんある中に芸術家や文化に関心のある人たちが次々と集まって、そこに非常に素晴らしい先進的な文化が花開いた。これは、たった一部の人たちが勝手にやっているということでありましたが、それがベルリンの今の価値をつくり上げていったと思います。先程お話しされた委員が今ヨーロッパで最も熱く面白い都市の一つはベルリンだと言われていましたが、原点をたどるとどうやらこの辺にあるのではないかと思います。そのぼろぼろの建物の中に芸術家などが集まり活動を展開していくと、その地区が面白くなっていく。そして周辺の価値が上がってくる。文化の創造があり、その文化を消費する人たちが集まってくる。様々なカフェやギャラリーなどが整備されてくるという現象をこの目で見てきました。そんなことがあり、紺屋2023のぼろぼろの建物を見たとき、当時のベルリンの様子記憶が蘇りました。だからこれから始まるであろうことにちょっと加担してみようかと思い、引っ越して6年間住んでいました。私は最初から住んでいたのも、次々と色々な人が集まってくるプロセスを見てきた。とかく都市計画や戦略ということを考えるとき、大抵は空から見る目というか俯瞰するような立場で都市計画や戦略を立てていく、それは非常に大事なことだと思いますし、そうでなければ

ばならないと思いますが、私の研究のフィールドや自らの経験を考え合わせると、私は空から見る目というよりは地面から見る目、現場のコミュニティに自ら入って行って、自ら参加させていただいて、その中で何が起きているかを観察して記録していく。物理的な場所があっても人は集まらない。では何故人は集まるのかというと、その場所を最初に面白いと思った人がいて、その人が面白いよと言って別の人を連れてくる。こんな具合で面白い人たちが次々と集まる。集まってきた人々には理解と共感がある。そういう中で文化は生まれていく。実際、紺屋2023に6年間いた間に、様々な方々と知り合うことができました。隣近所と話しているうちに、「こんなことをやったら面白いだろうね」「じゃ今度うちの学生を連れてくるから、一緒に何か展覧会をやりましょう」「イベントやりましょう」「何とかつくりましょう」という話がよく日常的に自然に起きてくる。紺屋2023ではいろいろなことが起こるが、そもそも元を正せばそういったレベルのことから様々な活動が起こってきました。私が全く関係のない土地から福岡にやってきて、縁もゆかりもない中で、大名という場所にある紺屋2023で初めて仲間に入れてもらえたと思っています。福岡という場所は外から来た人を受け入れてくれて一緒に盛り上がるメンタリティがあるのではないかと。全部ではないかもしれないし深く入れば違うこともあるかもしれないが、私の6年間の経験から言えば、そういう印象があります。大名での6年間は思う存分、何かをつくる活動を楽しませていただきました。6年経ち、そろそろ大名を離れて少し落ち着いたところに引っ越そうかと思いましたが、6年間というのは一つの節目で、6年目に私がお世話になった紺屋2023を去るにあたって、何かお土産を残していこうと思いついたのが、400ページにわたる紺屋2023アーカイブスという本です。これは学生と一緒に、プロジェクトを立ち上げてつくったものです。大名というまちがどういう成り立ちであるのか、そして紺屋2023という建物がリノベーションする前、リノベーションした後にどう変わったのか、それは建築的にどう変わったのか、そこに集う人がどう変わったのかということ記録していき、そして紺屋2023の6年間にいったいどんなイベントがあり誰が集まり何を考えてきたのかを一望できるような資料をつくりました。こういったことはなかなか記録を取っていかないと後世忘れられてしまうものなので、できるだけ残すようにしました。そしてもう一つ重要なのが、80人の方々にインタビューをして残したということです。建築やハードな部分はものが残るのでそれを後から検証することもできるかもしれない。しかしそこに集まり何かをして去って行った人々の記録というものは、その瞬間でしか切り取ることができない。でも紺屋2023のビルの中で起こったことは、ほぼ人々が考えつくり発表したことだ、とすれば人が何を考え何をしたかが非常に重要だということです。それ

を地面からの目で一つ一つ丁寧に記録していくという作業を学生と一緒にやりました。今回は、こういう形で大名に関わらせていただいて大変光栄ですし、私のリサーチの方法である、人を地面から見て、そこから何が起こりうるのか、それからそのことを記録してそこから何か新しいアイデア、創造に導くようなアイデアが生まれれば良いと思います。

(委員長) 大名の地域には人の創造力を育てる力があることを強調していただきました。小学校の跡地も創造性を育てる拠点になり、そうした役割を今後も担ってほしいということですが、創造性を育てるということは、即ち創造的な人づくりです。小学校としてこれまで人を育ててきた場所ですが、人づくりと新しい活動づくりを継承していく、あるいは強化していく拠点になるべきだというお考えを強調していただきました。また、そのためには、九州大学をはじめとする地元の教育機関などと連携する仕組みも必要で、大学連携の仕組みも合わせて導入していただきたいと思います。

(委員長) 次の委員の方お願いいたします。

(委員) お手元の資料のロンドンと福岡の類似性というレポートを去年の10月に出させていただきました。これは私が10年位前にロンドンに赴任していたことがあり、2年前に福岡に戻ってきました。そこで地図を見ていると福岡とロンドンが似ていないかということに気づき、並べてみたらやはりそうでした。縮尺も同じにしています。大濠公園、舞鶴公園というロンドンで言うとハイドパークにあたる所、東の方に行くと大名地域があつて、これはロンドンで言うとメイフェアといういわゆる高級ファッション街、ブランド街にあたる。サヴィル・ロウという背広の語源となった通りがあつたり、名だたる高級ブランド・ブティックが並んでいるところになります。そこから右に行くとロンドンではピカデリーサーカスという観光客がよく来る繁華街、オックスフォードサーカスだとかがまさに天神で、渡辺通りがリージェント・ストリートにあたります。それからさらに右に行くと、ロンドンではソーホー、コベントガーデンという文化・芸術の地域です。中華街があつたり、少し上の方に行くと大英博物館があり、福岡では須崎公園にあたる場所です。福岡では博多座やキャナルシティ、中洲といったところがあたる。ターミナル駅がロンドンではウォータールーという、昔はここからユーロスターが出ていてフランスにつながっていた大きなターミナル駅です。そこが博多駅にあたります。これは厳然たる事実ですので、何かうまく利用できないかと思いレポートを書いた次第です。ロンドンというと歴史のあるまち並みというイメージですが、歴史をひも解いてみると実は福岡の方が500年位古く、福岡の方が先輩格です。ところが、森事業財団の調べによると、ロンドンは国際観光都市としてナンバーワンという順位であり、福岡は36位です。ロンドンはどのような取り組みをしているのか調べ

ると、ロンドンにおけるまちづくりの特徴の「歴史的建造物との共存」というところを非常に戦略的にやっている。イングリッシュ・ヘリテッジという、ここが歴史的なものに手を付けるのはまかりならないというような権威のある団体があり、その人たちと必ず協議しなければならない。ここがまさにロンドンのしたたかなところで、戦略的に国際的な観光都市として惹きつけているところであると思いました。また CABA と言われている英国建築都市環境委員会というものがあり、これは **Commission for Architecture and The Built Environment** の略で、最後の“**Built Environment**”という概念が非常に大事ではないかと思います。日本では景観法もかなり整備されてきていますが、自治体によっては色だけの統一であったり看板の規制などもあります。ロンドンの場合は、あらゆる専門の委員から成り立っている CABA が、まちづくりに秩序を与えています。**Built Environment** なので一つのビルが建ったときにそのビルが周辺にどのような影響があるのかを分析しています。知らない間にあっちのビルが建ってこっちのビルが建ってという感じにはならないように、全体を見ながらやっています。その一つの手法が空間構造分析という私がレポートにしたものですが、例えばロンドンのトラファルガー広場というところでは、1.3倍に利用者が増加しています。トラファルガー広場という歴史的な建造物に手を付けるということは、通常イングリッシュ・ヘリテッジが許さないのですが、この空間構造分析を用いることでまちのポテンシャルを数値で見える化して、そこで議論していく。感覚的な概念で議論が水掛け論に終わらない工夫をしています。このスペースシンタックスという分析はロンドンが発祥です。ロンドンオリンピックでも選手村でこの分析が使われており、まさにいわゆるレガシーと言われているロンドンオリンピックの選手村が、建てた後にどのような価値を持つのかと建てる前からちゃんと考えながら戦略的にやっています。東京はまだやっていないと聞いています。スペースシンタックスの社長からは「千代田区の『アーツ千代田3331』を見た方がいい」と言われました。東京ではかなり斬新なやり方、特に私も金融機関ということで PPP、PFI と先程お話しされた委員の資料にもありましたが、どのように民間の知恵を入れながら回遊性やまちのポテンシャルを高めていくか、特に福岡の場合は国際観光都市を標榜していると思いますので、インバウンドのお客様をとりこみどのようにまちを活性化するかということです。もう一つ、大名地区はロンドンではメイフェアにあたる、ブランドが高いポテンシャルを持った地域だと思いますので、場合によっては逆に規制をかけてしまう、風営法を逆に強化するような、学校がなくなったことでいろいろなよからぬ建物が建ったりすることのないような、ロンドンは戦略的にやっているのもそういったところは今後ご紹介させていただければと思います。

(委員長) ロンドンと福岡の都心部の都市構造が大変類似しているというお話をいただきました。大名地区は、北は明治通り、南は国体道路に挟まれています。この二つの道路は福岡を代表する東西軸ですが、この二つの軸に挟まれた地区として、東から博多があり、中洲があり、西中洲、天神、春吉があり、大名、今泉という地区があり、それから赤坂につながっています。二つの軸は福岡、博多を代表する特色ある地区を串刺しにするような通りとも言えます。そういった特色ある地区が並んでいる中で、大名らしさを大切にしていける必要があるという点をロンドンとの比較の中でご示唆いただいたと思います。是非、そういった都心部全体の多様な地区構成における大名地区の位置づけを踏まえながら跡地利用を考えていくべきだということを強調していただいたと思います。

(委員長) 他に何か補足しておく点があればご発言していただきたいと思います。如何でしょうか。

(委員長) それでは最後に副委員長から一言お願いいたします。

(副委員長) 今日は大変多岐にわたるお話がありました。やはり広場がないこと、これをどのように校地、校舎跡を活かしていくかというのが非常に大事なお話だということからはじまり、空から見た時の周辺とのつながりの話はさせていただいたし、最後にお話しいただきました委員からは大変面白い、ロンドンとの比較をしていただいて見方がクリアになったと思います。それから様々な活動とのつながりをどうやっていくかというお話も大変示唆に富んでいたし、歴史性のつながりを時間軸として、今までの歴史をどのように将来につないでいくかというものも一つ大事な視点かという風に、いろいろな軸があってこれからどう解いていくか非常にやりがいがあると思います。私は大学で景観を専門としていますが、最後にどういう風にもものとして見えてくるかが私たちのアウトプットになるので、コンピューターグラフィックス、模型、いろいろなやり方があるが、そういったものをチェックしながらやっていくということをこれから作業としてあるかと思っています。資産づくりもこれからどうやってつくりこんでいくのか、大事な校舎があるのでこれをどのようにブランド化していくのか、メイフェアに負けないものを大名につくりこんでいくかが課題かと思っています。

(委員長) これからの委員会の役割を改めて確認していただきました。最後に本日のまとめをさせていただきたいと思います。まず、大名小学校はこれまで地域の子どもを育てる教育の場としてだけでなく、地域の歴史のシンボルでしたが、小学校が地域のコミュニティの中心拠点であったことを改めて皆さんと共有しました。これまでの小学校の位置づけや役割については地元の代表の委員の方々にも強調していただきました。これまでの役割を踏まえた上で、跡地利用を新たな拠点づくりにつなげていくこととなります。その上で、本日の委員会では

新たな拠点が備えるべき性能について、皆様からご意見をいただいたとも言えますが、その備えるべき性能は大きく6点にまとめられると思います。1つは歴史性です。これには二つ意味があります。校舎の文化財的な価値について説明がありましたが、1つは、文化財的な価値を保存して継承していくという意味での歴史性です。もう一つは地域が歩んできた歴史をこれからの世代に伝え、地域の歴史を継承するという意味における歴史性です。本日は地元委員の方々からはその重要性を強調していただいたと思います。2点目は居住性です。大名地区が天神地区と違うのは居住者の方がいらっしゃるということです。天神地区には夜間人口がほとんどいらっしゃいません。特に天神1丁目、2丁目にお住まいの方はほとんどいらっしゃらないと思います。その点、大名地区は都心の真ん中に位置しながら居住者の方々が日々暮らしている生きたまちであるということです。そういう意味からいうと地域の居住性が確保されなければなりません。住み続けられるまちであるためには、子どもの観点や高齢の方々の観点も重要です。そういった方々が楽しめる地域の遊び場やレクリエーションの機能もこの跡地は兼ね備えていかなければならないということです。3点目は防災性です。安心して住み続けられ、活動していく上で重要な安全、安心に関わる点です。2005年3月の震災時には、大名小学校の避難場所としての機能の重要性と必要性を強く認識しました。そういった経験も踏まえ、特に突発的な災害時に果たすべき防災機能が跡地にも必要であるということで、防災性を強調しておきたいと思います。4点目は創造性です。委員の方々からも強調していただきましたが、これまでの間に多くの若い人たちがこの場所で、またこの地域で育ってきました、一部の若者にとって大名は夢をかなえる場所でもあります。大名は色々な要素が混合していて、混在している良さとして、人間の想像力を掻き立てるような地域の魅力を創り出しています。これまでの経緯を踏まえ、また人づくりや活動づくりの場になってほしいという意見を踏まえ、創造性という言葉で代表されるような役割を強調しておきたいと思います。5点目は回遊性です。大名地区と天神地区と一体感を持ったまちとして捉え、歩行者が楽しんで歩けるような一体感のある地区間の回遊性を創り出すことの重要性に関わるお話をいただきました。また、東西、そして南北をつなぐ地区内の回遊性に配慮した跡地利用の必要がある点についてご意見いただきました。特に地区間の回遊性に関しては、人を惹きつけるようなマグネットのような魅力をこの跡地が持たなければなりません。そのためには、跡地のデザインも絡んでくると思いますが、そういった魅力的な跡地利用を是非実現していく必要があります。6点目は一体感、あるいは一体性という点です。いくつか意味がありますが、一つは、校舎の保存、利活用を含めた跡地利用と、跡地周辺や天神地区を含めた土地利用、施設利用との一体性、一体感を創り出すという意味で



す。更に、本日もご意見をいただいた周辺施設の建て替えなどとも協調して連鎖型でまちをつくっていく方法を含めた周辺地域の更新との連携という意味もあります。いずれにしても周辺との一体性を強く意識しながら、跡地利用を考えていただきたいと思います。本検討委員会は、地元を代表する方々、関連する各分野の専門家の方々、それから行政の関連部局を代表する方々で構成されているわけですが、跡地利用の構想を検討する際には、地元から湧き出てくるような課題への対応などボトムアップ的な観点に加え、専門家の立場から、これからの新しい時代を予測してこの地域、この跡地が担うべき方向性や将来性の観点も必要です。更に、市行政の都市政策、都心再生の政策に基づき、トップダウンという語弊があるかもしれませんが、政策的なアプローチを組み合わせる必要があります。それぞれのお立場からアプローチ、観点を出していただき、それを一つの構想の中に取りまとめていくのがこの委員会の役割です。また、小・中学校が統廃合の結果、跡地をどう活用していくかは全国的な問題です。東京 23 区内だけでも確か過去に廃校になった小・中学校は 160 校近くあったように記憶しています。その一部は超高層のマンションになったり、アーツ千代田 3331 のようなアート活動の拠点になったり、様々な事例があります。そうした事例を事務局の方にも研究していただき、大名小学校の跡地利用が全国の学校跡地利用のモデルになるようにしていただきたいと思います。福岡は既に博多部で 4 つの小学校を統廃合した経験があります。ただ、地域の特徴も違いますし、10 年以上経っているので、時代も社会経済情勢もかなり変わってきていますので、その時の経験を踏まえながら、新しい事例を研究して全国のモデルにしていきたい。全国のモデルになるという意味は、具体的にいうと 3 点あります。一つはプロセスです。地域の方々の意見を聞きながら、進めていくことに加え、専門家や民間の知恵を借りながら進めていくというプロセスです。2 点目は仕組みです。官民連携でまちづくりに取り組むと本日の資料には書いてありますが、官と民だけでは足りない気がしています。公と民と学があると思います。NPO の活動をしている方々。官民連携の言葉には、行政と民間企業しかその概念の中にありませんが、住民や市民の方々を含めた民という意味、NPO や大学を含めた公と民と学が連携するような取組みの仕組みを創っていただきたい。跡地利用の整備と整備後の運営を含めたデザインとマネジメントの仕組みと組織もつくっていただきたい。また、跡地に創られる施設や空間のデザイン、施設のコンテンツでも全国のモデルになっていただきたいと思います。プロセス、仕組み、組織、空間デザインの観点から、全国のモデルになっていただきたい。これから、本日出していただいたご意見を踏まえて構想の取りまとめを進めていきますが、皆様とご協力しながら一緒に進めていきたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。以上ですが、

最後に事務局から今後の進め方などありましたらお願いします。

(事務局) 今後の進め方については、冒頭2ページで説明させていただき、本日いただいた皆様のご意見も委員長に取りまとめていただきましたが、今後、事例調査を皆さんと一緒に進めさせていただくことを考えています。本日の意見に加え、視察を通してご意見をいただきながら、次回の検討委員会では資料の2ページにあるようにステップ2としてまちづくり方向性などを案としてお示しさせていただきたいと考えています。先進事例視察については日程調整をさせていただき、できれば3月下旬頃を考えています。次回の検討委員会については4月下旬位になると思います。本日は長時間ありがとうございました。